

文部科学省特別選定
少年向き・青年向き・成人向き・家庭向き



風は生きよという

存在を否定され、死ぬ自由を突き付けられ、それでもなお地域社会に分け入っていく勇敢な呼吸器ユーザーたち。存在理由を獲得していく彼らの姿が逞しく眩しく映っていた。

作家・日本ALS協会理事
川口有美子

追い風は、ときどき前から吹いてくる

人工呼吸器は呼吸を助ける道具です

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かせなくなったとしたら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの人に会え、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。じんわりとところを揺する、人と人が織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かせない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。

その風に包まれた人と人が、支えあいながら生きていたということ。



そこから吹いてくる風が 人と人とをめぐり合わせてくれます

在宅用の人工呼吸器が現れたのは1975年頃、1台200万円以上する呼吸器を自費で購入するなどして自宅へ持ち帰るしかなく、在宅へ戻るケースは稀であった。しかし1990年、診療報酬の改定により、病院から呼吸器をレンタルできるサービスが整備されたことで在宅生活への道が大きく開ける。

そして「病院から在宅へ」という医療改革の流れの中、在宅人工呼吸器利用者は現在約2万人にまで増えている。(出典：厚労省平成26年社会医療診療行為別調査)



障害が重ければ重いほど何のためにそこにいるのとか、言われるんだよね



障害者ができる大きい仕事ってというのは外に出て人目についで、人の意識の中に障害者の存在をちょっとでも根付かせていくこと



○お問合せ○ 「風は生きよという」上映実行委員会

〒761-0104 香川県高松市高松町873-102

TEL:080-3457-8833 FAX:087-883-6570 Mail:kazewaikiyotoiu@gmail.com 公式HP: <http://www.kazewaikiyotoiu.jp>